



A 試合会場レポート

試合番号 213

開催日 2015/12/26

平成27年度天皇杯ファイナルラウンド

会場: 大田区総合体育館

観客数: 1,800	開始時間: 15:05	終了時間: 17:24	試合時間: 02:19	主審: 大塚 達也	副審: 村中 伸
------------	-------------	-------------	-------------	-----------	----------

JTサンダーズ



監督: ヴコヴィッチ ヴェセル
コーチ: 徳元 幸人

通算: - 勝 - 敗
ポイント:

3	17	第1セット 【 00:25 】	25	2
	20	第2セット 【 00:27 】	25	
	25	第3セット 【 00:29 】	23	
	25	第4セット 【 00:29 】	22	
	17	第5セット 【 00:17 】	15	

堺プレイヤーズ



監督: 印東 玄弥
コーチ: 上杉 徹

通算: - 勝 - 敗
ポイント:

【】内はセット時間
()内は交代選手

<監督コメント>

まずはチームにおめでとうと言いたい。第1、第2セットはチャンスを生かし切れず、かなり追い込まれた状況となってしまったが、選手たちはチーム力でこの難しい試合をものすすることができた。良い面も悪い面も出た試合だったが、選手たちの勝ちたいという気持ちがプレーに出ていたと思う。

ファンの皆様、ご声援ありがとうございました。

<監督コメント>

相手を分析、対策した部分が機能して第1、第2セットを先取した。しかしながらJTがメンバーを代えて以降の対応が遅れ、特にヴィソット選手を攻略しきれなかったこと、焦りから冷静さ、精度を欠いたプレーが重なってしまったことが敗因の一部となった。

この準決勝で得た教訓を今後のチーム力向上の糧にして前進していきたい。天皇杯における3試合、堺プレイヤーズへの応援ありがとうございました。

17	越川	ヴィソット	第1セット	松本	千々木	25
	()	()		()	()	
	中島	町野		ペピチ	佐川	
20	深津	八子	第2セット	石島	横田	25
	()	()		()	()	
	井上	()		()	()	
25	リベロ: 唐川	リベロ: 井上	坂梨	25	25	
	ヴィソット	町野	ペピチ			松本
	()	()	()			()
25	越川	八子	第3セット	石島	千々木	23
	()	()		()	()	
	安井	深津		横田	佐川	
25	中島	ヴィソット	第4セット	松本	千々木	22
	()	()		()	()	
	井上	町野		石島	佐川	
17	八子	町野	第5セット	横田	佐川	15
	()	()		()	()	
	久原	()		出兼田	()	
17	リベロ: 唐川	リベロ: 井上	坂梨	15	15	
	中島	安井	佐川			出兼田
	()	()	()			()

<要約レポート>

第1セット序盤から一進一退の攻防が続くが、中盤から堺・千々木のアタックやブロックが決まりだすと流れは堺に傾き、その後もペピチの強打や松本のブロックで7連続得点をするなど点数を重ね堺がセットを先取した。

第2セット、JTはスタートから越川、八子が切れのあるスパイクで点数を取りにかかると、堺・ペピチの好ブロックが流れを変えた。勢いにのった堺は松本の連続ブロックによる得点にますます士気を上げ、ペピチの強烈なスパイクが相手コートに突き刺さり25点目を決めた。

第3セットに入るとJTはヴィソットにボールを集めたり、八子のバックアタックなどで攻撃を重ねるが堺の執拗なレシーブが勝った。強打を拾い、自分たちの攻撃へとつないだ。大差はつかないものの終始堺がリードした。JTは後半から、途中出場の安井がスパイクやナイスレシーブを決め同点まで追いつくと、中島、安井のブロックが続き、チームは一気に息を吹き返した。セットポイントを手に入れたJTは、勢いのある安井がスパイクを決めセットを取り返した。

何としてもフルセットに持ち込みたいJTは第4セット、勢いのある安井を起用する。八子が打ち、ヴィソットがブロックを決める。一方堺は千々木の安定したスパイクで得点し相手のリードを阻む。堺・石島の好レシーブからの自らのスパイクに、出来田のセンター攻撃が加わる。じわじわと流れをつかみそうな堺ではあったがJTは譲らなかった。JTはチーム一丸となりフルセットへと持ち込んだ。

第5セットはどちらも1点を譲らぬシーソーゲームとなった。一瞬たりとも目が離せないゲーム展開となった。堺・ペピチが打てばJT・ヴィソットが打つ。堺・石島が打てばJT・八子が打つ。堺・出来田が好レシーブやブロックを決める。JT・町野がセンターから攻めれば堺・松本もセンター攻撃で点を取る。観客を釘付けにしたままマッチポイントを奪ったのはJTであった。ゲームはデュースへとつれこんだが、最後の決定打はJT・八子のサービスエースであった。JTは決勝戦への出場権をものにした。

作成者: 遠藤 春枝